

資源株ファンド 通貨選択シリーズ
<ブラジルリアル・コース> <南アフリカランド・コース> <オーストラリアドル・コース> <米ドル・コース>
(毎月分配型)

2016年2月決算と今後の見通しについて

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ご愛顧いただいております掲題ファンドは、2016年2月17日に決算を迎えました。今回の決算において、現在の基準価額水準やファンドを取り巻く市況動向などを総合的に勘案し、また、お支払いする分配金額を抑えることで期待される再投資効果により、将来の運用成果を高めることをめざし、分配金額を以下の通り見直すことと致しました。

次ページ以降で、今後の見通しなどについてまとめておりますので、ご一読いただければ幸いです。

当ファンドは、基準価額の回復をめざし、鋭意運用を行なってまいります。今後とも、「資源株ファンド 通貨選択シリーズ」の各コースをご愛顧くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

分配実績

コース名		ブラジルリアル・コース	南アフリカランド・コース	オーストラリアドル・コース	米ドル・コース
分配金額 (税引前、 1万口当たり)	2016年 2月	20円 <引き下げ>	20円 <引き下げ>	30円 <引き下げ>	30円 <引き下げ>
	2016年 1月	40円	40円	60円	50円
2016年2月17日現在の 基準価額 (税引前分配金控除後、1万口当たり)		1,384円	2,178円	4,045円	6,014円

※基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

足元の
投資環境

資源価格下落やリスク回避の動きを受け、値動きの荒い展開に

■ 資源株

原油価格が下落基調となるなか、資源株は、資源価格下落による収益圧迫懸念が強まったことなどから、値動きの荒い展開が続きました。

2015年末にかけて、OPEC(石油輸出国機構)の減産見送りや米国の原油輸出解禁などを背景に原油の需給悪化懸念が強まったほか、12月に実施された米利上げに向けて米ドル高が進んだことで、原油価格は下落基調となりました。2016年に入ると、中国の景気減速懸念を受け、投資家のリスク回避の動きが急速に強まるなか、原油の国際指標であるWTI(ウエスト・テキサス・インターメディアート)は1バレル=30米ドルを下回る水準まで下落しました。

1月下旬以降は、主要産油国による協調減産への期待が台頭したことで、一時は、原油価格が持ち直す場面もみられたものの、その後、減産観測が後退したことに加え、世界景気の先行き不透明感などが重なり、再び下落に転じました。

■ 資源国通貨

外国為替市場では、2016年1月にかけて、投資家のリスク回避の動きが強まるなか、米国の利上げや資源価格の下落などが嫌気され、資源国通貨が総じて軟調な展開となりました。1月末には、日銀によるマイナス金利の導入が決定されたことなどを受け、資源国通貨は一時反発したものの、足元では、金融市場の動揺に伴う投資家のリスク回避の動きなどを受け、再び下落基調となっています。

こうしたなか、政治や財政、景気などへの懸念が続くブラジルや、昨年12月中旬以降に閣僚交代に伴う政局の混乱に見舞われた南アフリカで、通貨の下落が顕著となりました。また、オーストラリアでは、鉄鉱石価格などの軟調が嫌気され、通貨が売られました。

(各通貨の詳細については、後述をご参照ください。)

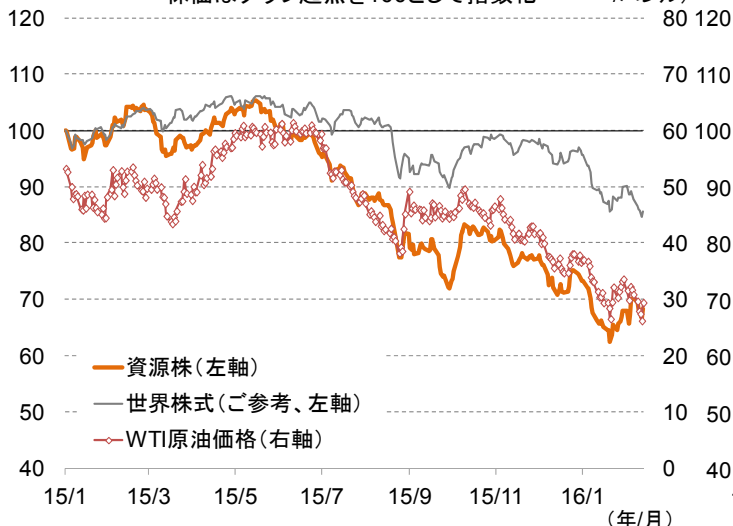
2015年初からの主要資産の推移

<資源株と原油価格の推移(米ドルベース)>

(2015年1月初～2016年2月12日)

株価はグラフ起点を100として指数化

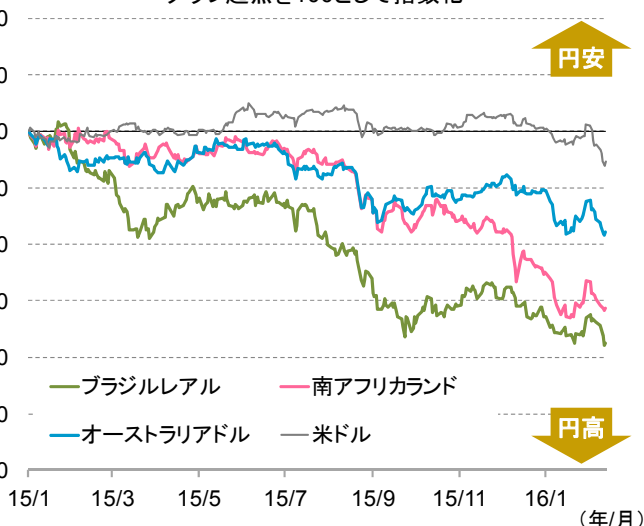
(米ドル
/バレル)



<為替(対円)の推移>

(2015年1月初～2016年2月12日)

グラフ起点を100として指数化



資源株：S&Pグローバル・ナチュラル・リソース指数、世界株式：MSCI AC ワールド指数

※ 上記指数は、市況動向をご紹介するための参考指標であり、当ファンドのベンチマークではありません。

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■ 当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

当ファンドの
基準価額

足元の運用概況について

【企業の健全性を重視して運用】

足元の厳しい相場環境下、当ファンドの資源株部分においては、キャッシュフローや配当余力などに着目しながら、強固な事業基盤や低コスト体質などを背景に健全な収益成長が期待される銘柄を選好し、運用を行なっております。しかしながら、2015年後半以降、資源株、資源国通貨ともに値動きの荒い展開となったことから、当ファンドも市場変動の影響は避けられませんでした。特に、前回、一部のコースで分配金の変更を行なった11月以降、市場の下落圧力とともに、基準価額も大きく値下がりする展開となりました。

【全コースで分配金額を引き下げ】

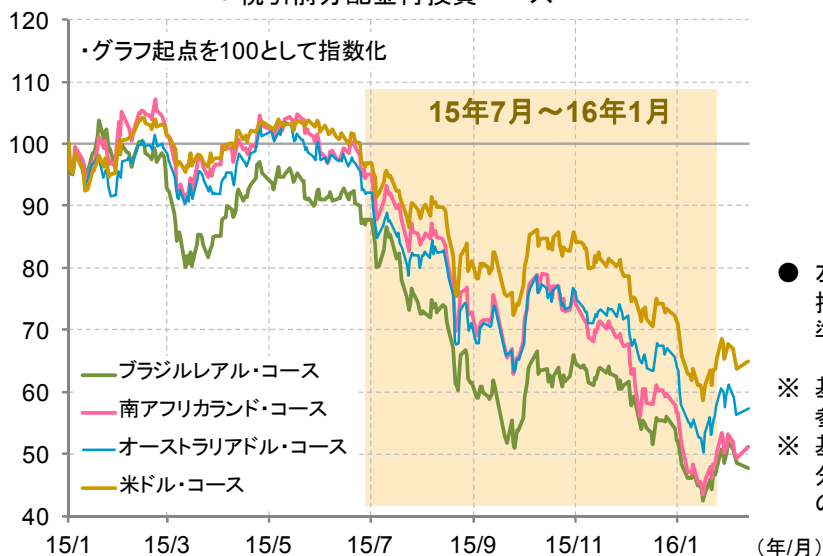
そのため今決算において、基準価額に対する分配金額の水準が高まっていることやファンドを取り巻く市況動向などを総合的に勘案し、また、お支払いする分配金額を抑えることで期待される再投資効果により、将来の運用成果を高めることをめざし、全ての通貨コースの分配金額を引き下げることと致しました。

足元の基準価額推移と2015年後半以降の基準価額変動の要因分解

＜基準価額の推移＊＞

(2015年1月初～2016年2月17日)

＊ 税引前分配金再投資ベース



● 左グラフは、税引前分配金再投資ベースの基準価額推移を指数化したものです。各コースの設定来の基準価額推移につきましては、後述をご参照ください。

※ 基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。

※ 基準価額(税引前分配金再投資ベース)は、税引前分配金を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意ください。

＜基準価額の変動要因＞

(2015年7月～2016年1月の合計値)

(単位:円)

	2015年6月末 基準価額	市場変動要因			信託報酬 その他	分配金	基準価額 変動額	2016年1月末 基準価額
		株式要因	為替要因	金利差相当額				
ブラジルリアル・コース	3,148円	▲ 786	▲ 673	174	▲ 27	▲ 430	▲ 1,741	1,407円
南アフリカランド・コース	4,606円	▲ 1,161	▲ 967	116	▲ 41	▲ 400	▲ 2,454	2,152円
オーストラリアドル・コース	7,124円	▲ 1,883	▲ 705	57	▲ 72	▲ 420	▲ 3,022	4,102円
米ドル・コース	9,475円	▲ 2,638	▲ 327	-	▲ 86	▲ 350	▲ 3,401	6,074円

※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

今後の見通し
〈資源株〉

逆風が続くなか、投資削減などの企業努力を続ける資源関連企業

- 先般発表された2015年10-12月期の決算発表では、資源関連企業にとって厳しい状況が続くなか、赤字転落となった企業もみられました。しかし、石油メジャー(国際石油資本)の中には、原油安の影響を受け、石油開発などの上流ビジネスが損失となったものの、石油小売などの下流ビジネスの利益によってある程度相殺され、全体では利益を確保した企業もみられます。
- また、資源各社は、資源価格低迷の長期化に備え、これまで以上に人員削減や資産売却などを加速させ、収益確保と経営の健全性維持に努めています。株主還元策については、自社株買いについては取りやめる企業もみられるものの、多くの石油メジャーは、減配はせず、今期は配当を維持する方針を打ち出しています。こうしたなか、資源関連株は、商品市況の影響のみならず、資源各社の今後の取り組みなどによっても、株価動向に差がみられると考えられます。
- なお、商品市況については、当面、先行きに対する投資家の警戒感や需給の動向などを受けて不安定な展開が続くとみられます。ただし、中長期的には需要の増加が予想されている一方で、資源各社の投資削減などを背景に、米国などの原油生産の減少が見込まれています。今後、こうした投資削減の動きが一段と加速すれば、需給バランスの改善を通じ、原油価格の押し上げにつながると期待されます。
- こうしたなか、当ファンドでは、事業基盤や健全性、長期成長見通しなどに重点を置き、より質の高い資源関連銘柄を選別しています。ただし、厳しい環境にある足元では、配当利回りやキャッシュフロー、借入金依存度などの観点から健全性を見極め、不透明な市況環境を乗り切ると見込まれる銘柄を選別しています。一方で、資源価格が低水準にある局面でも強い価格競争力を有し、将来の市況回復時にいち早く設備投資を再開して生産増に取り組み、市況回復の恩恵の享受が期待できる企業にも着目しています。

※ 当資料は、当ファンドの主要投資対象である「ナチュラル・リソース・ファンド」を運用する日興アセットマネジメントアメリカズ・インクからのコメントなどをもとに、日興アセットマネジメントが作成しています。

資源関連企業は相次いで投資削減や資産売却を加速させる方針を発表

強固な財務基盤の資源メジャーを中心とした配当重視姿勢もあり、利回りは高水準に

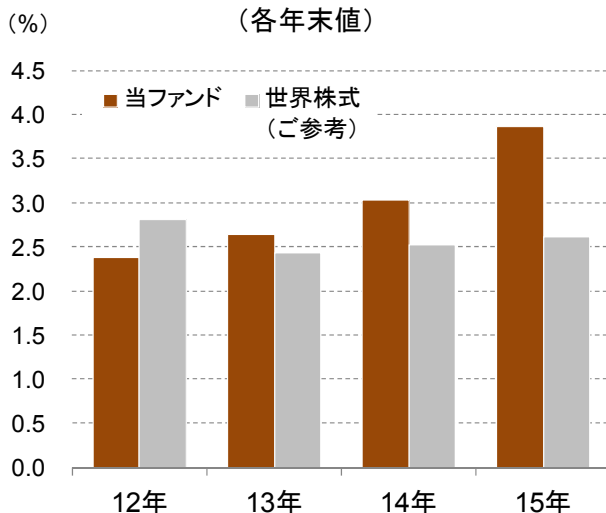
＜主要資源関連企業が発表した投資削減・資産売却＞ (2015年12月以降発表分、2016年2月12日現在)

シェブロン(米)	・2016年の投資額を前年比24%削減し266億ドル(約3.2兆円)に ・6,000~7,000人の人員削減
BP(英)	・原油生産(上流)部門で2016年に4,000人の人員削減
ロイヤル・ダッチ／シェル(英蘭)	・2016年投資額を従来計画から20億ドル削減し330億ドル(約4兆円)に
エクソンモービル(米)	・設備投資額を前年比25%削減し232億ドル(約2.8兆円)に
リオ・ティント(英豪)	・オーストラリアに保有する石炭鉱山の売却

各種報道などをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 上記は、全ての情報を網羅するものではありません。また、個別銘柄に言及していますが、当該銘柄の売買等を推奨するものでも、現在および将来の保有を約束するものでもありません。

＜当ファンドと世界株式の配当利回り推移＞ (各年末値)



世界株式: MSCI AC ワールド指数の配当利回り

当ファンド: 「ナチュラル・リソース・ファンド」の株式配当利回り

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■ 当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ〈ブラジルリアル・コース〉〈南アフリカランド・コース〉〈オーストラリアドル・コース〉〈米ドル・コース〉(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

今後の見通し
〈通貨〉

各通貨の現状と見通し①

- 日本の金融政策が一段と緩和的な姿勢を強めていることに加え、海外金利の上昇や日本の貿易赤字などを背景に、米ドルを中心に、各通貨は、対円で底堅い推移が見込まれます。



ブラジル
レアル

財政改善に向けた政府の取り組みに注目が集まる

- ブラジルでは、商品市況の下落圧力や高水準のインフレ率などを背景に景気鈍化が続いていることに加え、昨年12月の財務相辞任以降、財政健全化に対する不透明感が高まっており、通貨にとって厳しい状況が続いています。
- こうしたなか、同国中央銀行は2015年7月以降、政策金利を14.25%に据え置いており、資源国の中でも相対的に高い金利水準は、依然として魅力的と考えられます。また、足元で同国への直接投資の流入が拡大し、経常赤字が縮小傾向にあることは、通貨の支援材料となっています。
- 政治動向や財政見通しへの懸念が強まるなか、市場では、インフレ抑制や財政規律を重視した政策姿勢が求められており、今後、財政健全化に向けた政府の取り組みが進展すれば、通貨の後押しにつながると期待されます。



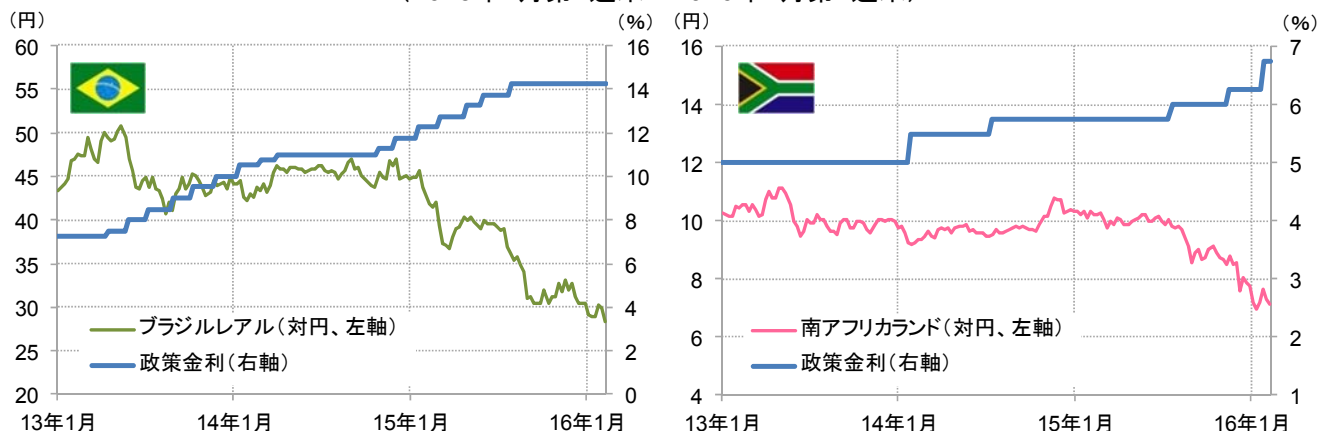
南アフリカ
ランド

中央銀行はインフレ抑制を重視し、利上げを実施

- 南アフリカでは、世界貿易の鈍化や資源価格下落による鉱業部門への影響、通貨安に伴う輸入物価の高騰などを背景に、景気低迷と高水準のインフレ率が続いています。こうした状況に加え、米国の利上げなどが下押し圧力となり、通貨ランドは軟調な展開となりました。
- こうしたなか、同国中央銀行は、1月に政策金利を0.5%引き上げ、6.75%としました。利上げ幅が前回よりも拡大したこともあり、市場ではこれが好感され、通貨は1月下旬に幾分持ち直しをみせました。中央銀行はインフレ抑制を重視し、今後についても緩やかな利上げ姿勢を示しています。
- 政治面では、昨年12月の財務相の解任騒動が通貨の下押し圧力となりました。ただし、最終的に着任した新財務相は、過去に財務相経験があり、また、同国国債の「投資適格級」維持に向けて努力する姿勢を示したことなどは市場で安心材料となりました。今後は、新財務相による財政運営に注目が集まるとみられます。

※ 当資料は、当ファンドの主要投資対象である「ナチュラル・リソース・ファンド」を運用する日興アセットマネジメントアメリカズ・インクからのコメントなどをもとに、日興アセットマネジメントが作成しています。

＜ご参考：為替(対円)と政策金利の推移＞
(2013年1月第1週末～2016年2月第2週末)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■ 当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ〈ブラジルレアル・コース〉〈南アフリカランド・コース〉〈オーストラリアドル・コース〉〈米ドル・コース〉(毎月分配型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

今後の見通し
〈通貨〉

各通貨の現状と見通し②



オーストラリア
ドル

商品市況が下落圧力となる一方で、内需が経済の下支え要因に

- オーストラリアでは、鉄鉱石価格の大幅な下落など、商品市況の軟調に加え、中央銀行の緩和的な金融政策が通貨の下押し圧力となりました。一方で、同国経済は、家計消費の底堅さや、住宅投資の加速などを背景に、緩やかな成長を続けています。
- 同国では、経済成長の軸足を資源セクターから国内サービス産業へ移行させつつあるものの、資源セクターにおける投資減少などは依然として景気の重石となっており、今後も、中央銀行による追加利下げが行なわれる可能性があることは、通貨の上値を抑えると考えられます。
- 今後も、米国の追加利上げ観測に伴う対米ドルでの下落圧力や、主要貿易相手国である中国の景気減速がリスク要因と考えられます。一方で、中国当局が進めようとしている景気下支え策の内容によっては、オーストラリア経済および通貨にも支援材料となることが期待されます。



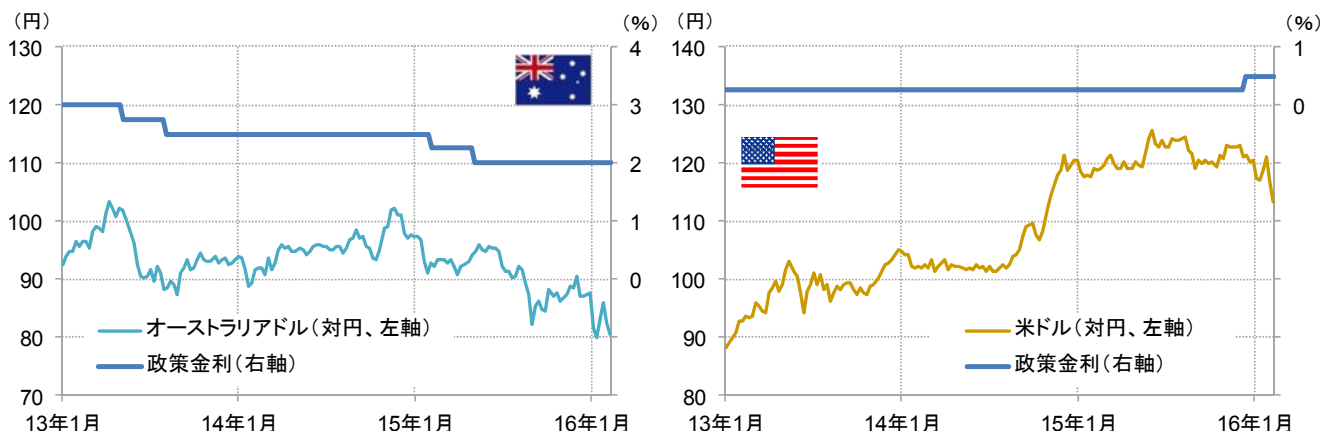
米ドル

景気拡大や金融政策の方向性を背景に、米ドル高基調の見通し

- 同国の2015年10-12月期GDPは、エネルギー関連企業の投資削減や米ドル高の影響を受け、前期比年率+0.7%に減速したものの、個人消費や住宅投資など、内需には底堅さがみられました。
- 足元では、大雪に伴う経済損失などが一時的な下振れ要因として懸念されるものの、堅調な雇用情勢が続くなか、GDPの約7割を占める個人消費が米経済をけん引し、中長期的には緩やかな景気拡大が続くと期待されます。
- FRB(米連邦準備制度理事会)は、昨年12月に利上げを実施し、今後も緩やかながら追加利上げの実施を示唆しています。足元では、金融市場の混乱などに伴ない、市場で追加利上げ観測が後退しつつあるものの、マイナス金利の導入などを通じて緩和的な姿勢を強める日銀との金融政策の方向性の違いを背景に、対円で米ドル高基調が見込まれます。

※ 当資料は、当ファンドの主要投資対象である「ナチュラル・リソース・ファンド」を運用する日興アセットマネジメントアメリカズ・インクからのコメントなどをもとに、日興アセットマネジメントが作成しています。

＜ご参考：為替(対円)と政策金利の推移＞
(2013年1月第1週末～2016年2月第2週末)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ〈ブラジルリアル・コース〉〈南アフリカランド・コース〉〈オーストラリアドル・コース〉〈米ドル・コース〉(毎月分配型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

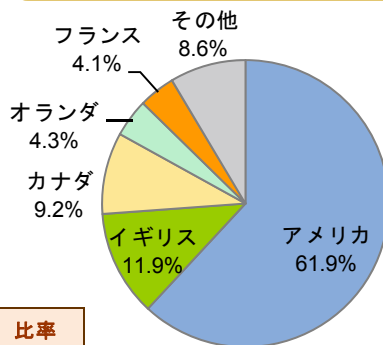
※以下は、当ファンドの主要投資対象である「ナチュラル・リソース・ファンド」のポートフォリオの内容です。

ポートフォリオ概要 (2016年1月末現在)

業種比率

業種	比率
エネルギー	54.6%
素材	40.0%
農業・食料	3.1%

国別株式組入比率



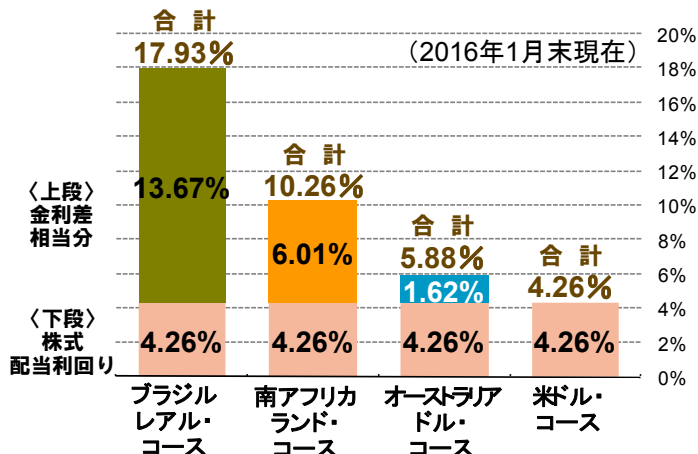
株式組入上位10銘柄

順位	銘柄名	国名	業種	比率
1	EXXON MOBIL CORP エクソンモービル	アメリカ	エネルギー	4.97%
2	ROYAL DUTCH SHELL-SPON ADR-A ロイヤル・ダッチ/シェル	オランダ	エネルギー	4.29%
3	TOTAL SA-SPON ADR トタル	フランス	エネルギー	4.10%
4	CHEVRON CORP シェブロン	アメリカ	エネルギー	3.95%
5	BHP BILLITON PLC-ADR BHPビルトン	イギリス	素材	3.84%
6	MONSANTO CO モンサント	アメリカ	素材	3.29%
7	RIO TINTO PLC-SPON ADR リオ・ティント	イギリス	素材	3.24%
8	BP PLC-SPONS ADR BP	イギリス	エネルギー	3.21%
9	ARCHER-DANIELS-MIDLAND CO アーチャー・ダニエルズ・ミッドランド	アメリカ	農業・食料	3.09%
10	INTERNATIONAL PAPER CO インターナショナル・ペーパー	アメリカ	素材	2.75%

【銘柄数：68銘柄】

※上記比率は、「ナチュラル・リソース・ファンド」の組入株式評価総額に対するものです。
※各数値は四捨五入処理をしておりますので、合計が100%にならない場合があります。

【ご参考】株式配当利回りと各通貨の金利差相当分



※金利差相当分：ブラジルリアル短期金利（CD（譲渡性預金証書）レート1ヵ月）、南アフリカランド短期金利（ヨハネスブルグ・インターバンク・アグリド・レート1ヵ月）、オーストラリアドル短期金利（1ヵ月物銀行手形金利）から、それぞれ米ドル金利（1ヵ月LIBOR）を差し引いて算出。
株式配当利回り：「ナチュラル・リソース・ファンド」の株式配当利回り
※各数値は四捨五入処理をしておりますので、それをを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
※金利差相当分は、各資源国通貨と米ドル間の金利差水準によっては為替取引によるコストとなり、運用成果にマイナスに働くこともあります。
※実際の運用においては、為替取引時の手数料相当額などが金利差相当分に加味されます。

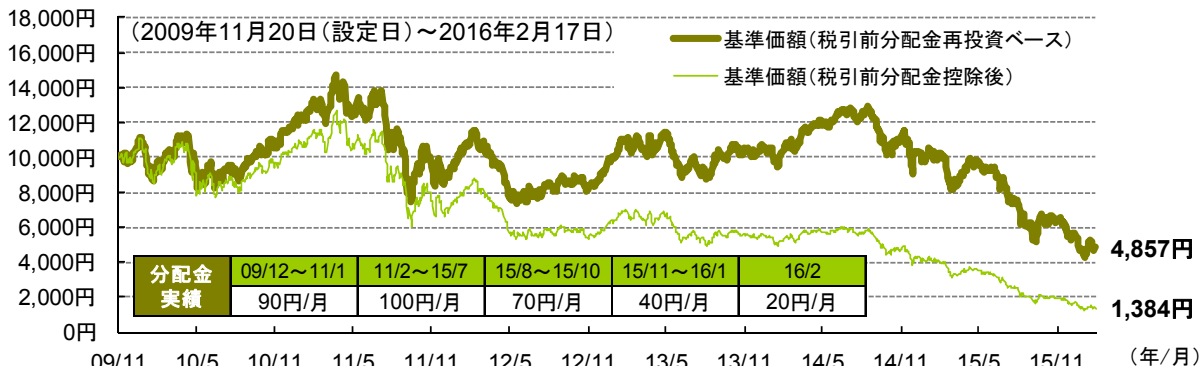
日興アセットマネジメント アメリカズ・インクより提供された情報をもとに
日興アセットマネジメントが作成

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

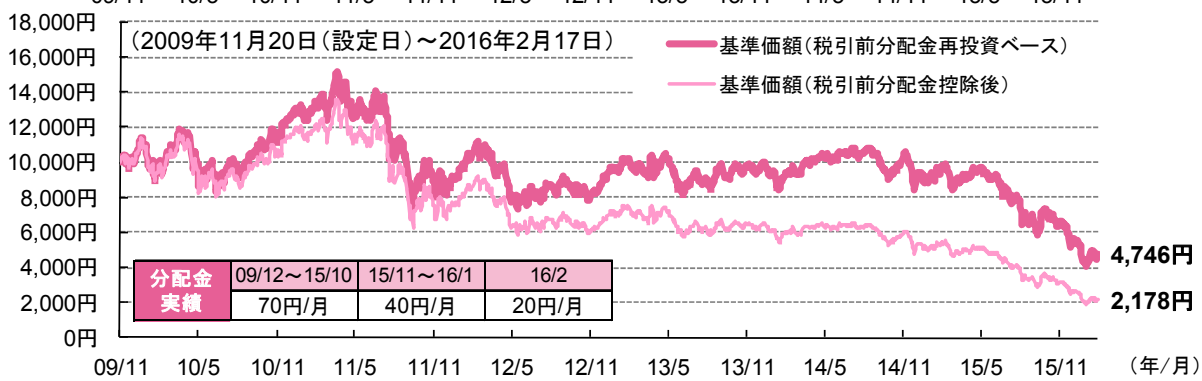
■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>（毎月分配型）」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

基準価額と分配金の推移

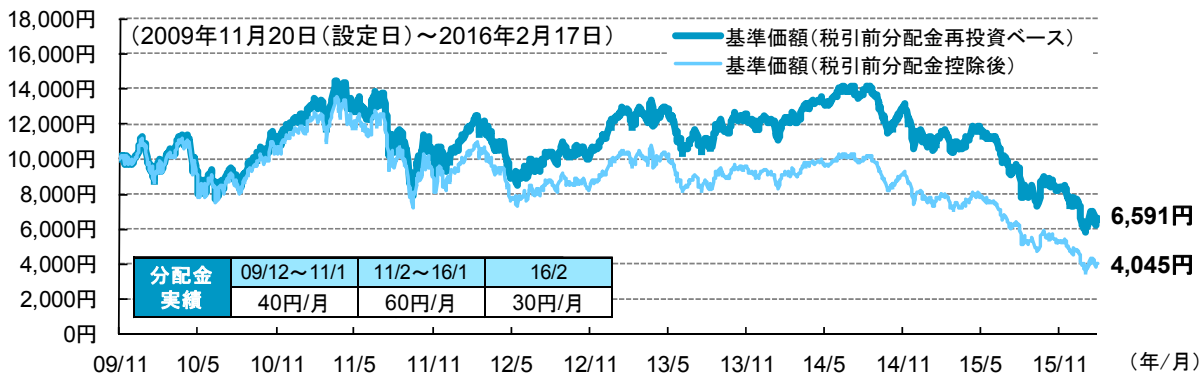
ブラジル
リアル・
コース



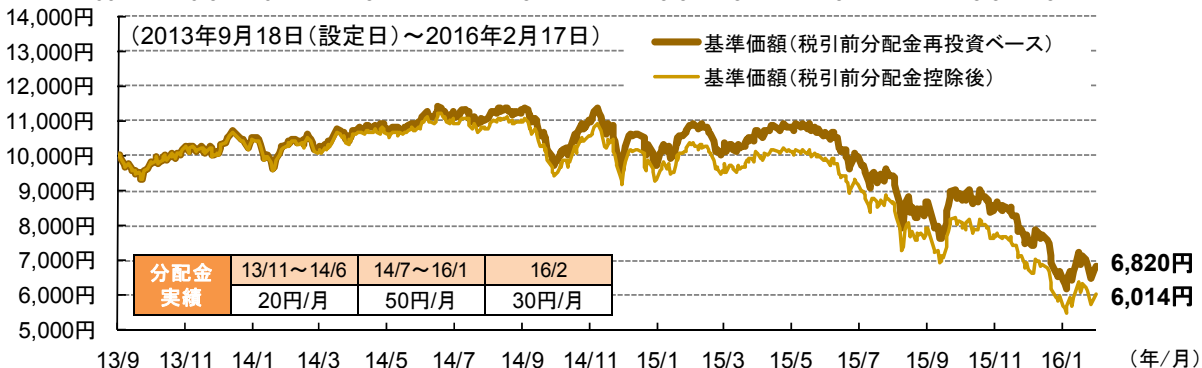
南アフリカ
ランド・
コース



オーストラリア
ドル・
コース



米ドル・
コース



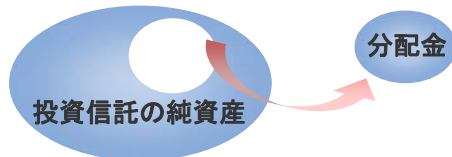
※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
 ※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の、分配金は税引前の、それぞれ1万口当たりの値です。
 ※ 税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したもとして計算した理論上のものであることにご留意ください。
 ※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ

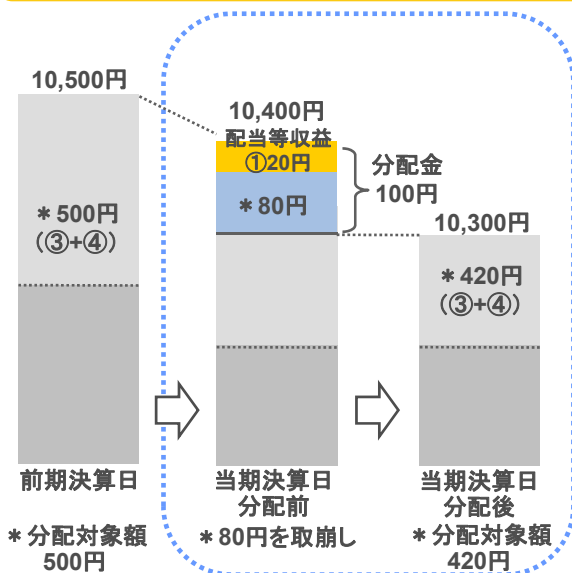
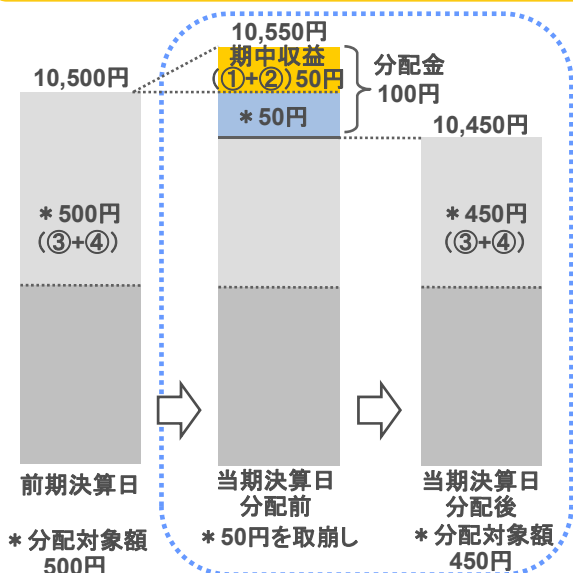


- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合

前期決算から基準価額が下落した場合

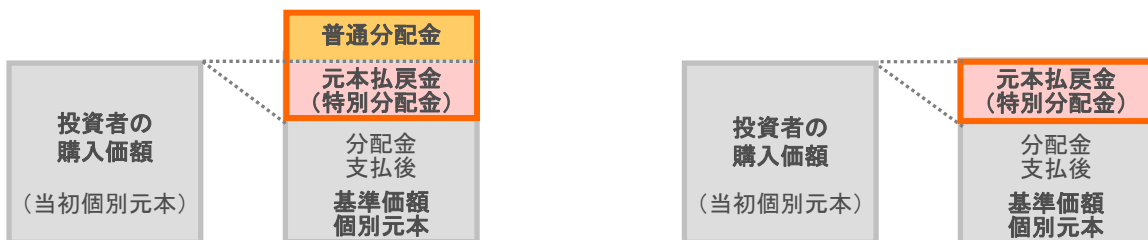


(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかつた場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

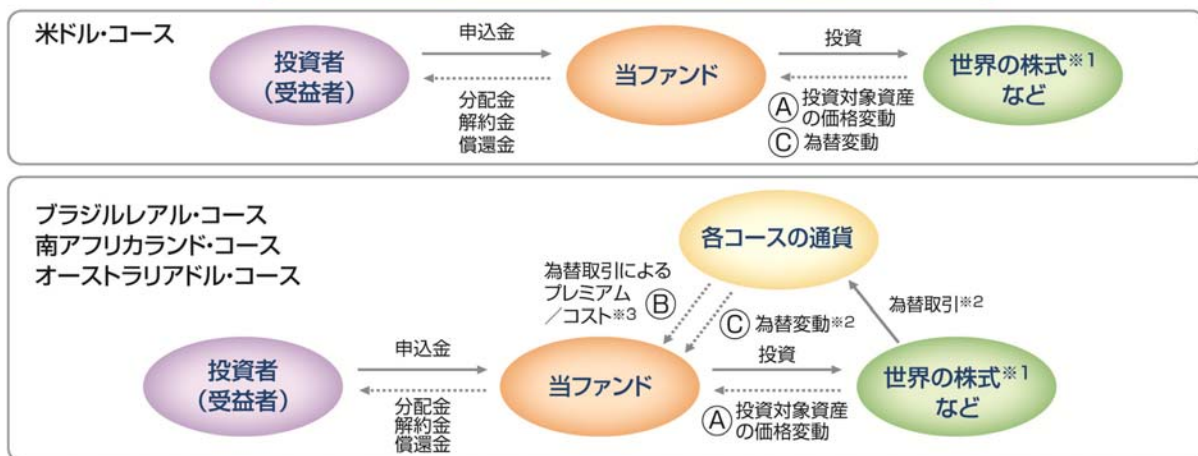
普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金(特別分配金) : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

通貨選択型ファンドの収益に関する留意事項

- 通貨選択型の投資信託は、投資対象資産(株式や債券など)の運用に加えて、為替取引による通貨の運用も行っており、為替取引の対象となる通貨を選択することができます。

通貨選択型の投資信託のイメージ図



※1 当ファンドは、外国投資信託を通じて世界の株式に投資を行いません。

※2 各コースの通貨と円の為替変動リスクがあります。

※3 為替取引によるプレミアム/コストは、為替取引を行なう通貨間の金利差相当分の収益/費用です。

- 通貨選択型の投資信託の収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。なお、収益源である3つの要素にはリスクが内在しています。詳しくは、「リスク情報」をご覧ください。

収益の源泉		=	(A) 株価の値上がり/値下がり	+	(B) 為替ヘッジプレミアム/コスト	+	(C) 為替差益/差損
米ドル・コース	収益を得られるケース		株価の上昇*		為替ヘッジを行なわないのでありません。		為替差益の発生 原資産通貨に対して 円安
	損失やコストが発生するケース		株価の下落*			為替差損の発生 原資産通貨に対して 円高	
収益の源泉		=	(A) 株価の値上がり/値下がり	+	(B) 為替取引によるプレミアム/コスト	+	(C) 為替差益/差損
ブラジルリアル・コース 南アフリカランド・コース オーストラリアドル・コース	収益を得られるケース		株価の上昇*		プレミアム(金利差相当分の収益)の発生 各コースの通貨の金利 - 米ドル金利が プラス		為替差益の発生 各コースの通貨に対して 円安
	損失やコストが発生するケース		株価の下落*		コスト(金利差相当分の費用)の発生 各コースの通貨の金利 - 米ドル金利が マイナス		為替差損の発生 各コースの通貨に対して 円高

*ADRに投資する場合、ADRの価格には、当該現地株式の通貨に対する米ドルの変動が含まれます。そのため、当該現地株式の通貨に対して米ドル安であれば、株価上昇要因、当該現地株式の通貨に対して米ドル高であれば、株価下落要因となります。

※市況動向によっては、上記の通りにならない場合があります。

通貨運用に関する留意事項

- 各通貨の運用に当たっては、直物為替先渡取引(NDF取引)を活用する場合があります。
- NDF取引とは、投資対象通貨を用いた受渡を行わず、主に米ドル等による差金決済のみを行なう取引のことを言います。
- NDF取引では、需給や規制などの影響により、為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)/コスト(金利差相当分の費用)が、短期金利から算出される理論上の水準から乖離する場合があります。そのため、想定している投資成果が得られない可能性があります。
- 為替取引には、為替ヘッジ(原資産通貨を売り、円を買う取引)が含まれています。為替ヘッジの場合、「為替取引によるプレミアム/コスト」を「為替ヘッジプレミアム/コスト」といいます。

■ 当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

1. 主として世界の資源株に投資を行ない、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
 2. 「ブラジルリアル・コース」「南アフリカランド・コース」「オーストラリアドル・コース」「米ドル・コース」の4つのコースがあります。
 3. 毎月、収益分配を行なうことをめざします。
※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行なわない場合もあります。
- 市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

お申込みに際しての留意事項

■リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式(預託証券を含みます。以下同じ。)を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様は「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡しますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

委託会社、その他関係法人

- 委託会社 日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社(再信託受託会社: 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)
- 販売会社 販売会社については下記にお問い合わせください。
日興アセットマネジメント株式会社
[ホームページ] <http://www.nikkoam.com/>
[コールセンター] 0120-25-1404 (午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	

(50音順、資料作成日現在)

お申込メモ

- 商品分類 追加型投信/内外/株式
- ご購入単位 購入単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
- ご購入価額 購入申込受付日の翌営業日の基準価額
- ご購入不可日 購入申込日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に当たる場合は、購入のお申込みの受付(スイッチングを含みます。)は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 信託期間 【ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース】
2024年6月17日まで(2009年11月20日設定)
【米ドル・コース】
2024年6月17日まで(2013年9月18日設定)
- 決算日 毎月17日(休業日の場合は翌営業日)
- ご換金不可日 換金請求日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に当たる場合は、換金請求の受付(スイッチングを含みます。)は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- ご換金代金のお支払い 原則として、換金請求受付日から起算して7営業日目からお支払いします。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

手数料等の概要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金時に直接ご負担いただく費用>

購入時手数料 購入時手数料率(スイッチングの際の購入時手数料率を含みます。)は、3.78%(税抜3.5%)を上限として販売会社が定める率とします。
※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

換金手数料 ありません。

信託財産留保額 ありません。

※販売会社によっては、スイッチングが行なえない場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

信託報酬 純資産総額に対して年率1.79%(税抜1.71%)程度を乗じて得た額が実質的な信託報酬となります。受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。
詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

その他費用 【ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース】
目論見書などの作成・交付にかかる費用および監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、その都度、信託財産から支払われます。

※組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。

【米ドル・コース】

目論見書などの作成・交付および計理等の業務にかかる費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、その都度、信託財産から支払われます。

※組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。

※ 当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。